

夏の星空と神話のお話

8月に入り、暑い日が続いていますね。夏期講習で大変、という人もいるでしょうが、熱中症や感染症に気を付けて、元気で過ごせると良いですね。

ティープロでは、4年生以下には理科の夏期講習がないかわりに、夏の課題が出ています。4年生には、授業で星空についての特別講を実施し、北斗七星と北極星、夏の大三角を観察してスケッチしてくる課題を出しました。

「もうやっちゃったよ」という人もいるかもしれませんが、星を見たり、スケッチしたりするときに気を付けて欲しいことをいくつか。

1. なるべく周りが暗く、できれば見晴らしの良いところを探しましょう。都内、特に区部では空が明るく、1等星は見えるものの、それ以外の星を見るのはちょっと大変です。また、山間部では人工的な明かりは少ないものの、山そのものや樹木などが視界をさえぎってしまう場合もあります。
障害物のない田んぼや畑の真ん中、というのが観察には良いのですが、見つけるのはなかなか大変ですよ。
2. 基本的に暗いところで行うことになるので、懐中電灯などの明かりを用意するなど、安全には気をつけてください。暗いとテンションが上がって走り回ったりしたくなる人もいないでしょうか。けがなどしないように、落ち着いて行動してください。虫よけもあると良いですね。
3. 夏の「大三角」というと星を3つだけスケッチしてくる人がいるのですが、周りの星がないと、その星が本当に大三角の星なのかどうかわからなくなってしまいます。こと座やわし座は形をスケッチするのが少し難しいかもしれませんが、はくちょう座は比較的明るい星がわかりやすい形に並んでいるので、特徴をつかんでスケッチしてみてください。



さて、夏の大三角と言え、こと座のベガ（ヴェガ）とわし座のアルタイルが含まれていますね。このふたつの星は、日本では別の名前でもよばれています。

知っている人も多いと思いますが、織姫おりひめと彦星ひこぼしですね。七夕伝説に出てくる夫婦の名前です。結婚前は働き者だったのに、結婚してからは働かなくなってしまったために別れ別れにされてしまった、というお話なのですが、1年に1回しか会えないというのはあんまりだ、と思いませんか？

ちなみに、七夕の願い事は、機織りはたおが上手な織姫にあやかってするものなので、技能や芸事の上達を願うのが本当なのだそうです。あん Do も子供のころは知らなかったのですが、本当は「ゲームが欲しい」なんて書いてはいけなかったんですね。

夏の夜空には、もう1つ大事な星（一等星）があります。さそり座のアンタレスです。南の空の低い位置に明るい赤い星が見えたら、アンタレスの可能性が高いでしょう。さそり座は、冬の星座として有名なオリオン座と同じ神話に登場します。



日本から見える星座には、ほとんどその由来となる神話があります。星の名前も、その神話に関係がある場合もあります。興味のない人にとっては「星なんてただの光る点」「星座なんてただの星の集まり」なのでしょうが、星座にまつわるお話を知ると、星座や星も楽しくおぼえられるかもしれません。せっかくだから、楽しく勉強してみても良いのではないのでしょうか。

22/8/3 あん Do